

# 敬老のつどい

## 栄区の100歳以上の

## 高齢者は16名



発行人 会長 亀澤 弘

記録破りの猛暑が続いた今年、暑さも一段落した9月20日に栄公会堂で敬老のつどいが開催されました。30周年という節目を迎えた本郷中央地区社協、運営やプログラムに新しい趣向が凝らされ、より良い取り組みにして行こうとの意気込みが感じられます。

### プログラム

#### 第一部（式典）

- ・ 開会のことば
- ・ あいさつ
- ・ 来賓あいさつ
- ・ 御礼のことば
- ・ 閉会のことば

#### 第二部（演芸と抽選会）

1. 公田小学校  
音楽クラブの  
金管合奏
2. 浜ゆたかさんの  
みんなで唄おう  
プアラニレファの  
フラダンス
3. 青少年指導員の  
みんなでゲームを  
楽しもう
4. 青少年指導員の  
お楽しみ抽選会

第1部の式典には光田栄区長をはじめ、区内選出議員、校長先生、福祉関係者など、多くの来賓が参列され、ユーモアあふれる、温かい祝辞を頂きました。区長は、「今年には100歳以上の方を訪問しました。皆さん、笑顔が素晴らしく、私の方が元気を頂きました」と。



#### 第2部は、公田小学校音楽クラブの元気いっぱい演奏でスタートしました。

可愛らしく、会場から思わず笑顔がこぼれます。続いて、会場参加型の歌・踊り・ゲーム形式の抽選会です。

フラダンスのプアラニレファのお姉さんから「フラダンスの手のふりにはみな意味がある」と説明を受けるほど！と納得して、「月の夜は〜」と、フラガールと一緒に参加者も手のふりで踊りました。

抽選会は例年と違うやり方に緊張が走ります。「脳が刺激された」「真新しくて、楽しめた」との参加者からの声。手作りの抽選用紙、会場と声かけあつて走り回る青少年指導員の努力と工夫に拍手！でした。

全員にフクロウの絵のついた湯飲み茶わんをお土産に用意しましたが、受付の時に手渡したのがことのほか好評で、終了時の混雑もなく、参加者も開催スタッフも、来年の再会を期して、和やかに散会しました。



# 本郷中央地区

## 支えあい連絡会

### 桂台地域ケアプラザ

地域の皆さんとお話していると、いつまでもこの住み慣れた街で安心して暮らしていきたいとの思いが伝わってきます。それは、ご高齢の方々から、子育て世代の誰にでも共通した思いだと感じます。

だれもが安心して暮らせるまちづくりを地域の力による実現のために、10年ほど前に発足したのが、『本郷中央地区支えあい連絡会』です。支えあい連絡会は地域の福祉課題に沿って、5つの分科会に分かれております。

メンバーは地域の保健福祉関係の役員の方々、各ボランティアグループ、公募で集まった方々で構成されています。以下に各分科会の特色についてご紹介いたします。



### 支えあい連絡会

#### 各分科会の特色

①地域福祉関係者分科会は・・・地域に起こる問題や課題についての意見や情報交換をし、さらに解決を図るための啓発や提案などの活動をしています。

②ボランティアグループ分科会は・・・ボランティア活動をするうえで生じる問題解決のため、各ボランティアグループ相互の意見や情報交換の場となっています。

③子育て支援分科会は・・・さまざまな社会環境の変化にともなって生じている子育て問題について、経験豊富な支援者と当事者などの意見、情報交換の場となっております。

④地域づくりの会は・・・地域への関心を高め、住民間、関係機関とのつながりを作ることによって、暮らしやすいまちづくりを目指しています。

### ⑤広報分科会は・・・

支えあい連絡会の他の4つの分科会や地域の福祉保健活動の情報を中心としたホームページの作成とホームページの地域への普及啓発活動を行っています。

<http://www.katuradai.com>

今年3月に『第2期栄区地域福祉保健計画』が策定されました。支えあい連絡会が推進母体となり、22年度から27年度までの6年間で計画に沿った活動を進めていきます。

お互いの活動の理解を深めながら、保健、福祉の関係機関や団体、地域の保健福祉活動を担う人々が連携して、安心して暮らせるまちづくりの輪を広げてゆきます。



## 第20回いたち川

### いかだまつり

いたち川いかだまつりは、区役所の裏のいたち川で手作りいかだに乗って遊ぶ、楽しいイベントです。

今年も20回目となります、9月11日(土) 10時～13時 光田栄区長をお招きして楽しく事故なく盛況裡におこなわれました。

当初は8月22日に計画していましたが、都合で9月11日に延期したもので参加者が減るのではないかと懸念されましたが、予想を上回る子供320人、総参加者600余人、秋の猛暑の中いたち川と楽しく遊



びました。今年も四角い親子で乗れるいかだ2台、船型1台、ペットボトルを活用したものの1台、おわん型1台で遊びました。

いかだまつりは、区の後援を頂き、地区社協、体育指導委員協議会、青少年指導委員協議会、栄区子ども会連絡協議会、地域通貨プロジェクト、水辺愛護会、企業(セレモ上郷ホール)、いたち川と親しむ会等で行っています。更に今年も桂台中学や本郷中学の生徒がスタッフとして運営に参加してくれ大いに助かり盛り上げてくれました。

延期したことで心配していなかったかと心配していた、やってくれてありがとう、以前から楽しみにしていましたと云う声に代表されるように、多くの人が楽しみにしているイベントです。

勿論、反省する事は沢山あります。それらを改善改良してより楽しい街のイベントにしていきたいと考えています。

(第20回いたち川いかだまつり 実行委員会 滝口 稔)

# 私たちの地域福祉を支える人々

.....この方に聴く

萬矢 和恵氏 (民生委員・児童委員)



①この地域に移転して三十余年。地元の方々と新住民が助け合い、子育て時代から、健やかな中高年です。豊かな自然と多くの友人に恵まれて、子供達は巣立ってゆきました。今や「若者よ！戻っておいで」と願っています。

②この地域は、福祉への関心度、参加数、文化活動。とても秀でています。みなが一斉に齢を重ねてきた今、生き生き暮らすには協力、励ましあい、学びあいが大切です。助けを受ける前に何とか人様のために・・・と行動してみる。自分の番になったら「ありがとう」と感謝。これが住民福祉の原点とおもいます。

③民生委員の役目は皆さんの縁の下の力持ち。「ここにいますよ。何かあったら連絡してね。」の存在です。三十一名の仲間が活動しています。有事の結集力は素晴らしいものです。この仲間が私の二十余年の活動のおおきな宝物です。

鈴木 一美氏 (交通安全本郷中央分会長)



①私は、本郷中央地区社会福祉協議会に携わっているようになって五年になります。

この栄区はみどりが多く、環境も良く、私は大好きです。

②高齢社会を迎え栄区内でも朝夕、介護の車が行き交うのを見るたびに、これに携わる方々に「ご苦労様」と思っています。核家族化により、高齢の方を残して若い人が同居していない家族もあると思いますが、今問題になっている、百歳以上の不明者につながっていると思えます。昔は、バアちゃん子などお年寄りと一緒に住んでいた家庭が多かったため、今のようないじめなど殆んど聞かれなかったように思っていますし、むしろ子供の面倒を見てくれたと思います。

③今のうちに「せかせか」した世の中が、もっと「ゆったり」した世の中に変わればもっと「おおらか」な人間になれると思っています。

長田 智子氏 (更生保護女性会理事)



①急速に進む日本の少子高齢化の中にあつて私達の地域もその例にもれず、65歳以上の

の人口比率が30%を超えると聞いております。そういう中、ボランティア活動も活発な地域ですが、住民どうしの希薄化が進む中、地域の連帯、住民福祉参加に今一步の御協力をお願いしております。

②近所のコミュニケーションと老若男女、赤ちゃんづれのヤングママからお年寄りまで自由に集える広場。

③有識者の方々に社会福祉協議会にもっと参画していただいて、一緒に前向きな意見交換等しながら、発想の転換からより良い方向に進んでもらいたいと思っております。それと、更生保護女性会としまして、年間を通じて「社会を明るくする運動」を展開しておりますが、地区社会福祉協議会活動の中でこの運動が連動して何かの形としてできればと思っております。

木村 知恵子氏 (当地区社協事務局長)



①大都市、横浜という名の元、都会的感覚の中に緑が多く、田や畑もあり、少し片田舎の

様にも感じられます。これらの両面を持つたこの地は子育てに、大人も子供にもふるさととして、最高の所です。

②住民福祉とは一人一人の心の「和」からはじまり、世代を超え地域を広げて、大きな「輪」になることです。人は一人では生きて行けません、近所でお互い助け合いささえ合つて前進して行きたいものです。

③先日行われた「本郷中央地区の敬老のつどい」は如何でしたでしょうか。当日参加された方、又参加が出来なかった方々から多くの感想・意見を頂きました。十人十色の声と思いを頂きました。社会福祉協議会の考えを合わせより良い方向に進められれば最高です。来年は、「満員御礼」の垂れ幕を出せるように、努力したいと思っています。皆様の協力をお願い致します。

# キャンプin野島2010

本郷中央地区恒例の子どもキャンプ「キャンプin野島」が今年も7月17日～18日の1泊2日、野島公園キャンプ場で開催されました。小学3年生から中学1年生までの子ども達28名、青少年指導員・体育指導委員のスタッフ28名、合わせて56名が参加し、お天気に恵まれてとても充実した楽しいキャンプになりました。



自分達で寝るテントを張り、



覚えたてのロープワークでゲームをしたり、薪割りや火起し、野外での炊事、みんなで賑やかな食事など、楽しい野外生活を体験学習しました。また、海に近い野島公園ならではの「潮干狩り」、班対抗で競い合った「スイカ割り」や「ドッジビー」。テントの中ではお友達と話したりゲームをしたりと、とても充実した2日間を過ごしました。子ども達の楽しそうな笑顔や一生懸命の真剣な顔：・来年もまた元気な子ども達と一緒にキャンプに行けることを楽しみにしています。

(青少年指導員 橋本 哲芳)

## イタツチのこのごろ

(さかえ地域通貨プロジェクト 大塚 宏)

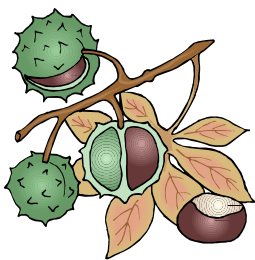
●イタツチは、昨年の11月1日に本格スタートから、まもなく一周年を迎えます。平成24年10月末日まで、あと2年間有効で、グリーンの100イタツチのほかに、パープルの500イタツチもあります。協力店舗も80に増え、身近な商店街で買物できるようになりました。

●イタツチは「いたち川」にちなんだ名前で、通貨の単位もあります。いたち川のマスケットの「タツチくん」にも似た響きです。「いゝタツチ、いゝふれあい」の意味もあります。地域での助け合いを活発にし、「ありがとう」の言葉があふれるまちをめざしています。もう一つ、地域内で生まれたモノやサービスなどを買いやすくして、地域の暮らしを支えることも目的としています。

●イタツチを受け入れてくださる店が増えたので、ある福祉グループは、配食サービスの生鮮食料品を買うのに使うとともに、お手伝いのボランティアさんへのお礼に渡していらっしやいます。ある地域では、商

店街の、ほぼすべての店が参加されたので、自治会やサークル活動がボランティア活動のお礼にイタツチを渡す動きと相まって、身近なお店で買物しやすいく地域への動きにつながっています。「ありがとうの気持ちをあらわすのに使ってるよ」という方も増えてきたそうです。

●11月20日から26日、「アートdeつながるショップ・シヨップ・シヨップ」というアートイベントに、栄区商店街連合会、つながるアートと一緒に取り組みます。栄警察署の前の本郷商栄会を中心にしたエリアで、おなじみになった「イタツチ市」も開きます。「本郷中央地区青指＋ユートピア本郷の会」も子どもたちと大人気の「なないろぼうむくうへん」で参加です。イタツチを手に、ぜひおでかけください。



★原稿募集★  
当地区社協広報部では、地域の皆さんからの福祉の向上に関するものや福祉に関する団体の活動についてなど諸々の話題・意見などお待ちしております。  
本誌は3月、6月、9月、12月頃にそれぞれ発行予定です。いずれの場合も発行予定の前月末までに、左記の事務局までお寄せ下さい。  
本郷中央地区社会福祉協議会  
事務局 木村知恵子  
☎(892)0197 (広報部)

◆編集後記◆  
当地区社協、30周年記念の節目にこの様な形でたずさわることができ、幸せを感じます。これからも地域の皆さまと共に支え合って歩んで行きたいと思えます。

編集委員  
青木 功  
木村 知恵子  
前田 万里子  
柳本 佳子  
星 明男